

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

人生の成熟は

仏のことばを聞く



四季の中でも「秋」は一番多くの意味合いを含んでいるようです。秋は一説に、収穫がア(飽)キ満ちる、草木の葉のアカ(紅)クなる意味があるようです。また実る、成熟する、深まりということから、人は昔から人生に置き換えて観てきたように思います。

「成熟社会」という言葉がよく使われます。これは量的拡大のみを追求する経済成長が収束に向かう中で、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する、平和で自由な社会を言いますが、今私たちの住む社会は果たしてそう

いえるのでしょうか。また社会的成熟とは、社会人として仕事に責任を持ち、家族の生活と安全に責任を持てる状態にあることを指します。

動物の場合は、肉体的成熟が、即人間で言う成人に当たります。しかし、複雑な社会構造を有する人間にあっては、肉体的成熟を即成人とは見做せません。

私たちは人生で色々なことに出遭い、色々な人に出会いながら、そこからの意味を問う学ぶことをせずに、ただ空しく月日を過ごして生涯成熟しない人がいます。

穀物や作物に実がなり、熟していくのはそのものをつつむ沢山の恵みを吸収するからです。決して自らの力で成熟していくものではありません。

仏教では、さとり(大安心)について「聞」ということをとても大切にします。聴聞(ちようもん)、聞信(もんしん)、聞法(もんぼう)、聞見(もんけん)、聞名(もんみよう)などの多くの熟語がありますが、何と言っても、お経の最初の言葉は「如是我聞(にょぜーがーもん)」。「私はこのように聞かせていただきました」で始まり、「聞仏所説、靡不歡喜(もんぶつしよせつ、みふかんぎ)」。「仏の説くところを聞きて、歡喜せざるはなし」で終わっています。

聞くというと、普通私たちは人間の作った言葉を聞いていくのですが、これはどこ

まで聞いたところで安心のできるものではありません。なぜなら真実(ほんとう)の事を知らない、本当のことに目覚めない人間の言うことは、よろずのことはみな空言、たわごと、まことなきものだからです。

真実はただ一つ、私たちに呼び掛けられている如來のことば(念仏)であると到達された親鸞聖人は、「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごととはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」(歎異抄後序)と申されました。

それでは「念仏一つが真実である」とはどういうことでしょうか。

浄土真宗は「専修念仏」(せんじゆねんぶつ)であります。専修とは専ら修する、念仏だけを専ら修するのです。それについて念仏行(ねんぶつぎよう)の正しさをお伝えくださった中国浄土教の大成者善導大師(六一三〜六八二)は、さとりへの行として五種の正行(しようぎよう)を示されました。

先ず読誦(どくじゆ)。經典を読むということ、あるいは經典の話を聞くことです。浄土の三部經(大無量壽經・觀無量壽經・阿彌陀經)、いわゆる阿彌陀仏の救いを説いたものに集中して、それを読むことです。即ち雑多なものをあれこれ読むのではなく、阿彌陀仏というところに中心をおいて読むことです。

次に觀察(かんざつ)ということ。觀察とは考えることを言います。仏教で觀(くわん)というのは、心をすまして考えることです。本当に考えるためには戒(かい)、定(じよう)が必要であるといえます。定というのが觀です。戒とは生活。自分の生活を簡素化してリズムを作り、

煩惱の波風が立たないように努めます。喧嘩ばかりしていたのでは考えるという事はできないから、できるだけ心を平静に保つ、そこにはじめて考えるということが出来るのです。

次に礼拝(らいはい)。あれこれや拝むのではなしに彌陀一仏を礼拝讚嘆(さんだん)する。南無阿彌陀仏と称名(しようみよう)する。讚嘆供養(さんだんくよう)。感謝しほめたたえ、お花をあげ、香を焚き、仏前をきれいにしてお供え物をする。それを供養といいますが。

専修念仏とは、これらの五種正行を並列してやるのではなく、五つを同価値に見てやるのではなしに、称名一つを専修する。これを専修念仏といいます。

善導大師は称名を正定業(しようじようごう)、他の四つを助業(じようごう)と言い、称名が即ち浄土に必ず誕生する業(行為)であると言われました。人生における本当の誕生、人間として本当に生きるといふことから成長は始まります。ドンダリは親木から生まれただけで殻を被っている。あつちころころこつちころころして、これは流転(りゅうてん)といって転がっているだけです。前進は第二の誕生、即ち成長、しっかりとした大地をもってそこから水を吸収し、光を受けながら生きていく、そこに生きるということが成り立ちます。そのゆるぎない大地(真実)に立ち、水と光を受けながら生きていくとき、ドンダリが発芽して殻を破って芽を伸ばし、一本の木になつていきます。如來大悲の心に帰れ、来たれ、共にとの阿彌陀仏の呼び声を聞くところに、称名念仏すべき身と知らされるのです。

【寺灯雑記】

○大盛況だった文化講演会

10/25

第26回目を迎えた中原寺文化講演会は、講師の姜尚中氏の知名度もあってこれまで最高の入場者(およそ400名)となり、会場に入りきれずに帰る人も多く出ました。テレビ等でお馴染みの政治学者であり、聖学院大学学長の姜尚中先生は「心の力」と題してお話しされ、人徳と穏やかな語り口の中に深い感動を与え、聴衆を魅了いたしました。

左記は多く寄せられた感想文の一部です。

○これから生きる若者のことを、とても考えられていると感じました。“私とは出会った人のこと。”ひとつひとつの出会いから学びたいと思います。(五十代女性)

○「いのちの流れ」、受け継ぎ、遺していくもの大切さを再考しました。夏目漱石を再びゆつくりと読み通したくなりました。先生の児童書の出版を心待ちにしています。(五十代女性)

○全部が素晴らしい話がありがとうございました。二人の子供を亡くし心が折れそうでしたが最後まで生きつくさなければと思いません。何よりも心の力の意味を勉強させて頂きました。心から感謝申し上げます。(七十代女性)

○今、一番怖いのは「無関心」ということ、を聞いて、たしかにそうだと思います。いろいろな情報を今は得られるのに、もっと感じたり、反応したりということを感じたいし、自分の子も含めて若い世代に伝えていきたいです。(五十代女性)

○あらゆる面にバランス良く話される、話術に感動しました。キーワード的には、自分が生きてきた証を何らかの形で残し伝える。無関心の時代。生きがいのある人生。(六十代男性)

○「心を伝え、心を受け取る」、「心を通じて、いのちが伝わる」というメッセージが印象に残りました。戦後の日本で、何が伝えられてきたか、日本の国民としてまた個人として自分が何を受け取り、伝えていくかという課題を与えられ、これからの励みとなりました。(三十代女性)

○自分の存在価値を見直していこうと感じた。(六十代男性)

○Q&Aが実によかった。質問者の意を汲みとりつつ、先生の意見思いを合せて語る、すばらしいものです。(七十代男性)

○千葉組仏教壮年会の研修会に参加

10/28

千葉市の大願寺を会場に千葉組仏教壮年会連盟の研修会が開催され、当寺から、住職と5名の会員が出席しました。第1部では各寺における壮年会の活動状況報告があつて、当寺と天真寺の2カ寺より内容の発表がありました。また第2部ではお寺の活性化を目指して、これからの壮年会の活動について、東京教区仏教壮年会連盟の前、現理事長の2人から期待と協力への講話がありました。

○お仏具磨きや清掃の奉仕

11/8

浄土真宗の最も大切な法要行事である報

恩講を前にして、およそ40名の方々がご奉仕くださいました。

お仏具磨きや本堂等の清掃奉仕は五正行の中の讃嘆供養にあたります。尊い布施行でもあり、有難いことと感謝いたします。

○秋の叙勲を受賞

11/7

前住さんがこの秋の叙勲で瑞宝小綬章を受賞されました。長年にわたり教誨師として拘置所の被收容者への心情安定と改善更生に努めている功績によるもので、秋晴れのこの日ご夫妻で皇居に向かれました。

おめでとございます。

○二カ寺がグランドゴルフで交流

11/12

松戸の天真寺さんと当寺がグランドゴルフ試合で交流しました。

当寺から9名天真寺さんから6名の男女が参加して楽しい交流試合となりました。こちらの参加者はグランドゴルフは初めてという人も多く、打った球を追いかけて結構面白かったとその印象を話していました。

○築地本願寺の報恩講で帰敬式を受式

11/15・16

今年も築地本願寺の報恩講期間中である15日と16日に行われたご門主による帰敬式(おかみそり)に当寺から左記の8名が受式して法名をいただきました。

- *山奥努さん *山奥富美子さん
- *日高紀美重さん *橋口祐太さん
- *辻勝悟さん *辻万永さん

*植野和代さん *植野耕平さん
おめでとございました。これを新たな機縁として聞法に励まれますよう念じます。

○お仏飯米を進納

- *三ツ矢智勢子様 *橋口俊信様
- *福島道宏様 *錦織春海様

○ホームページをリニューアル

このほど中原寺のホームページをリニューアルし、フェースブックを開設しました。ご覧ください。

【法要・法座・行事案内】

☆報恩講法要

日時：十一月二十日 五時

- ・親鸞さまと過ごす夕べのコンサート
- ・速夜法要(初夜礼讃)

日時：十一月二十一日 十一時

- ・日中法要(讃仏偈)
- ・ご満座法要(正信偈)
- ・法話 池田行信師(栃木慈願寺住職)

○和讃に学ぶ 十一月二十九日(土) 三時

○門信徒会役員会

十一月三十日(日) 三時半

○婦人会法座 十二月六日(土) 一時

○壮年会法座 十二月十四日(日) 三時

○年末懇親会 十二月十四日(日) 六時

場所：料亭大松 (男性七千円、女性六千円) 壮年会主催ですがどなたでもご参加下さい。

【十一月の掲示板のことば】

感動は人を変える 笑いは人を潤す
夢は人を豊かにする